

平成24年度
安平町財務諸表
《基準モデル》

北海道勇払郡安平町
企画財政課

1. 財務書類整備の目的

発生主義・複式簿記などの企業会計手法により財務書類の作成・活用を通じて、資産・債務に関する情報開示と適切な管理を一層進めることを目的としています。

2. 作成の基準等

新地方公会計制度改革に伴い、総務省より発表された『新地方公会計制度研究会報告書』（以下「報告書」といいます。）に基づき、当町においては「基準モデル」を活用した財務書類四表を公表します。

財務書類四表とは、貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書で、この四表を作成することにより、安平町が所有する全ての資産と債務が把握でき、資産債務改革や行財政改革に活用できます。

作成基準日は、会計年度の最終日である平成25年3月31日とし、平成25年4月1日から平成25年5月31日までの出納整理期間の収支については、基準日までに終了したものとして整理しています。

各財務諸表中の記載額は、百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計が一致しない場合があります。

[公会計のモデル]

「基準モデル」

複式簿記で記帳した帳簿に基づいて、財務諸表を作成する考え方を基本とする方式で、当初段階で全ての固定資産を洗い出し、公正評価に基づき評価します。

「総務省方式改定モデル」

決算統計をはじめ、決算書などの既存の資料を使用して財務諸表を作成する考え方を基本とする方式で、段階的に固定資産を評価、複式簿記を導入します。

[財務書類四表]

「貸借対照表(BS)」

年度末時点における資産、負債及び純資産の残高を示すもの。

「行政コスト計算書(PL)」

当該年度における行政活動に伴う費用と収益の取引高を示すもの。

「純資産変動計算書(NWM)」

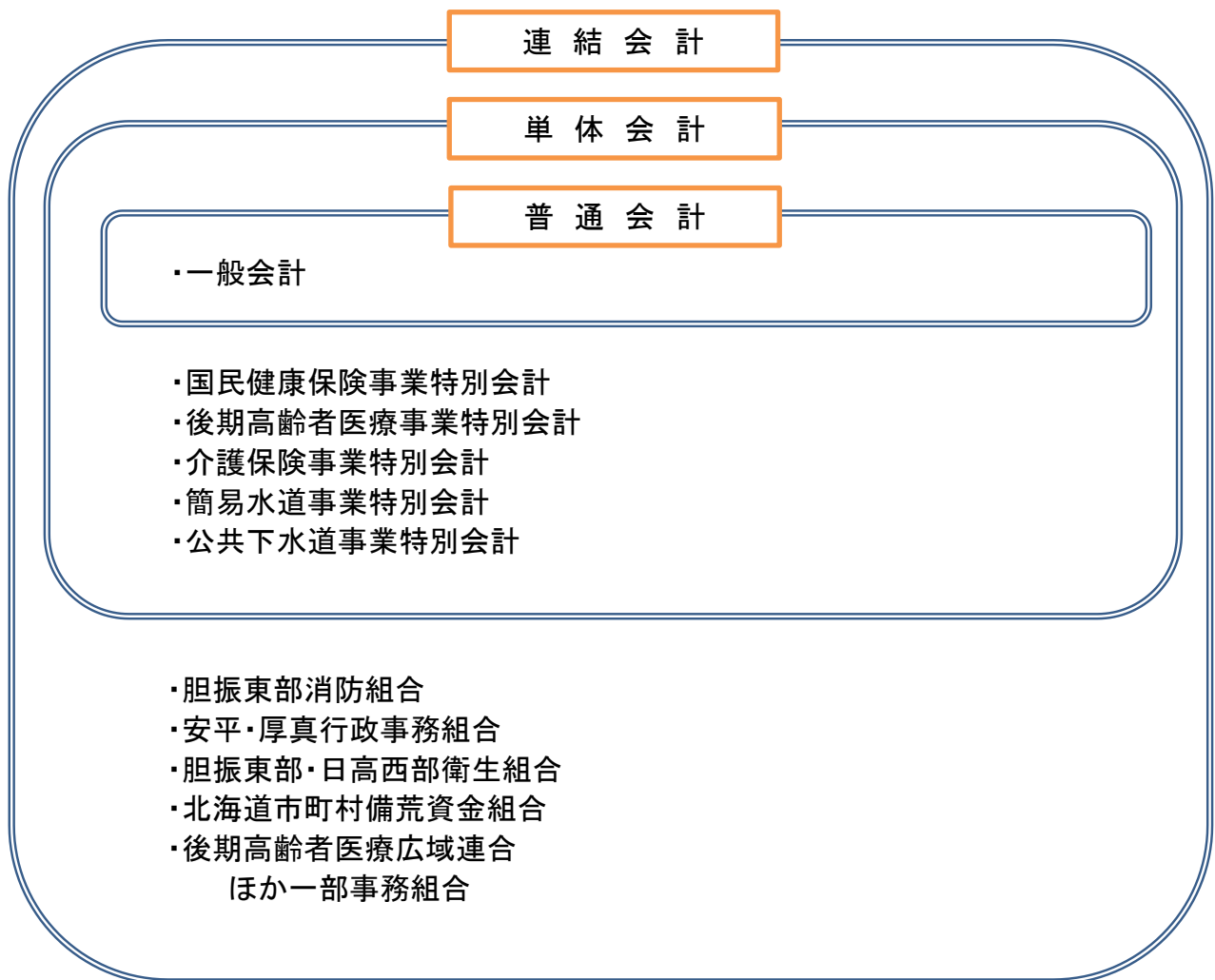
当該年度における純資産とその内部構成の変動を示すもの。

「資金収支計算書(CL)」

当該年度における資金の支出と収入を示すもの。

3. 対象とする会計の範囲

新地方公会計制度では、普通会計・公営事業会計を対象とする「単体財務書類」及びその他の関連団体を含めた「連結財務書類」を作成することとされています。ただし、それぞれの連結対象団体で財務書類の作成モデルが異なることや、決算情報の提供がない団体があることから、当町では単体財務書類までの作成としています。



4. 平成24年度安平町財務諸表(単体会計)

(1) 貸借対照表[バランスシート]

年度末(平成25年3月31日)に保有する①資産、②負債、③純資産を示したものです。

「①資産」

学校、公園、道路など将来の世代に引継ぐ社会資本や、投資、資金など将来現金化することが可能な財産。

「②負債」

町債(公債)や退職給付引当金など将来の世代の負担となるもの。

「③純資産」

過去の世代や国・件が負担した将来返済しなくてよい財産。

(単位:百万円)

資産の部		負債の部	
	平成24年度		平成24年度
1. 金融資産	4,618	1. 流動負債	963
資金	300	未払金及び未払費用	69
金融資産(資金を除く)	4,318	前受金及び前受収益	0
債権	393	引当金	68
有価証券	168	預り金(保管金等)	3
投資等	3,757	公債(短期)	823
2. 非金融資産	35,260	短期借入金	0
事業用資産	18,963	その他流動負債	0
有形固定資産	18,963	2. 非流動負債	15,321
無形固定資産	0	公債	14,104
棚卸資産	0	借入金	35
インフラ資産	16,297	責任準備金	0
		引当金	1,152
		その他非流動負債	30
		負債合計	16,284
		純資産の部	
		純資産合計	23,537
資産合計	39,878	負債及び純資産合計	39,821

これまでに安平町では、398億8千万円の資産を形成してきました。そのうち純資産である235億4千万円については、過去の世代や国・道の負担で既に支払いが済んでおり、負債である162億8千万円については、将来の世代が負担していくこととなります。

これらを町民1人あたりに換算すると、資産が460万円、負債が188万円となります。

平成24年度は、資産については金融資産が各基金残高の増加により前年度より280百万円増加しています。また、非金融資産についても追分中学校建設事業や、デジタル防災行政無線整備事業などの実施により前年度より増加しますが、公共施設等の減価償却によって相殺され、▲200万円の減少となっています。

負債については、非流動負債が大きく減少しましたが、これは高齢者福祉施設建設費の借入金を一括繰上償還したことにより大きく減少しました。

※平成25年3月31日現在の住民基本台帳人口は、8,658人です。

(2) 行政コスト計算書

1年間の行政運営コストのうち、福祉サービスやごみの収集にかかる経費など、資産形成につながらない行政サービスに要したコストを①人件費、②物件費、③経費、④業務関連費用、⑤移転支出に区分して表示したものです。

「①人件費」

職員給与や議員報酬、退職給付費用など。

「②物件費」

備品や消耗品、施設等の維持補修にかかる経費や減価償却費など。

「③経費」

委託料や使用料、手数料、広告料など。

「④業務関連費用」

町債の利子、一時借入金利子など。

「⑤移転支出」

町民への補助金や扶助費など。

(単位:百万円)	
平成24年度	
1. 経常業務費用	3,752
①人件費	1,295
②物件費	1,332
③経費	864
④業務関連費用	261
2. 移転支出	3,590
①一般会計への移転支出	0
②補助金等移転支出	3,174
③社会保障関係費等移転支出	395
④その他の移転支出	21
経常費用合計(総行政コスト)	7,342
1. 経常業務収益	474
①業務収益	353
②業務関連収益	121
経常収益合計	474
純経常費用(純行政コスト)	▲ 6,868

平成24年度の総行政コストは、73億4千万円です。これを町民1人あたりに換算すると85万円になります。

行政サービス利用に対する対価として、町民の皆さまが負担する使用料・手数料などの経常収益は、4億7千万円になります。総行政コストから経常収益合計を差し引いた純経常費用は、▲68億7千万円となりますが、この不足分については、町税や地方交付税などの一般財源や、国・道補助金などで賅っています。

(3)純資産変動計算書

純資産(過去の世代や国・道が負担した将来返済しなくてよい財産)が平成24年度中にどのように増減したかを「1. 財源の変動の部」、「2. 資産形成充当財源変動の部」、「3. その他の純資産の変動の部」に区分して表示したものです。

1. 財源変動の部 : 行政コスト計算書に計上されない財源の流入出を表す。

(1)財源の使途

財源を行政コスト計算書に計上されない固定資産形成や長期金融資産形成など、どのようなものに使ったかを表す。

(2)財源の調達

町税や地方交付税などの一般財源や、国・道補助金など行政コスト計算書に計上されない財源。

2. 資産形成充当財源の変動の部 : 財源を将来世代も利用可能な固定資産、長期金融資産にどの程度使ったかを表す。

(1)固定資産の変動

当該年度に学校、道路などの社会資本を取得した額と、過去に取得した社会資本の経年劣化等に伴う減少額を表す。

(2)長期金融資産の変動

基金、貸付金、出資金など長期金融資産の当該年度における増減を表す。

(単位:百万円)

	平成24年度
期首純資産残高	22,952
1. 財源変動の部	355
(1)財源の使途	8,468
①純経常経費への財源措置	6,868
②固定資産形成への財源措置	901
③長期金融資産形成への財源措置	397
④その他の財源の使途	302
(2)財源の調達	8,823
①税収	1,741
②社会保険料	431
③移転収入	5,578
④その他の財源の調達	1,073
2. 資産形成充当財源変動の部	230
(1)固定資産の変動	33
(2)長期金融資産の変動	191
(3)評価・換算差額等の変動	6
3. 少数株主持分の変動の部	0
4. その他の純資産の変動の部	0
当期変動額	585
期末純資産残高	23,537

平成24年度の純資産は、235億4千万円となり、前年度から17億5千万円の増加となりました。これは、過去に取得した固定資産の減価償却費などの減少分よりも、固定資産や金融資産への投資が多かった事によるものです。大きな要因としては、追分中学校建設事業などがあります。

(4) 資金収支計算書

1年間分の資金の増減を、「1. 経常的収支」、「2. 資本的収支」、「3. 財務的収支」に区分し、金額を表示したもので、どのような活動に資金が必要であったかを表しています。

1. 経常的収支

行政サービスを行う中で、毎年度継続的に収入、支出されるもの。

2. 資本的収支

学校、公園、道路などの資産形成や、投資、貸付金などの収入、支出など。

3. 財務的収支

町債、借入金などの借金、償還など。

(単位:百万円)

平成24年度	
1. 経常的収支	1,626
(1) 経常的支出	6,516
① 経常業務費用支出	2,927
② 移転支出	3,589
(2) 経常的収入	8,142
① 租税収入	1,691
② 社会保険料	431
③ 経常業務収益収入	443
④ 移転収入	5,577
2. 資本的収支	▲ 1,166
(1) 資本的支出	1,338
① 固定資産形成支出	901
② 長期金融資産形成支出	397
③ その他資本形成支出	40
(2) 資本的収入	172
① 固定資産売却収入	18
② 長期金融資産償還収入	114
③ その他資本処分収入	40
基礎的財政収支	460
3. 財務的収支	▲ 327
(1) 財務的支出	1,528
① 支払利息支出	224
② 元本償還支出	1,304
(2) 財務的収入	1,201
① 公債発行収入	1,191
② 借入金収入	7
③ その他の財務的収入	3
当期資金収支額	133
期首資金残高	167
期末資金残高	300

平成24年度の資金収支額は、前年度から1億3千万円の増となり、資金残高は3億円になりました。大規模工事である追分中学校建設事業が完了したことにより固定資産形成支出が減少し、それに伴い基礎的財政収支額が平成23年度の1億3千万円から平成24年度は4億6千万円となり、3億3千万円増加しています。

期末資金残高を町民1人あたりに換算すると3万5千円になり、前年度より1万3千円増加しています。

5. 4つの財務諸表からわかること

1. 町民1人当たりの資産と負債、行政コスト

資産：460万円 負債：188万円 行政コスト：85万円
(457万円) (205万円) (83万円)

※平成25年3月31日現在の住民基本台帳人口(8,658人)による。下段()内は平成23年度の数値。

2. 社会資本形成の世代間比率(地方債残高+未払金)÷(公共資産+投資等)

社会資本の整備結果を示す事業用資産及びインフラ資産の合計額のうち、地方債残高の割合を見ることで、今後の将来世代によって負担される割合を見る事ができます。高い数値ほど、将来の世代が負担する割合が高いことを表します。

平成24年度	平成23年度	比較
71%	78%	▲7%

3. 純資産比率(純資産÷総資産)

総資産のうち、返済義務のない純資産の割合を見ることで、財務の安定性を見る事ができます。企業でいう自己資本比率に相当し、この比率が高いほど財政状況が健全であると言えます。

平成24年度	平成23年度	比較
59%	55%	4%

4. 負債比率(負債÷純資産)

純資産に対する負債の割合を表すもので、この指標が低いほど財政状況が健全であると言えます。

平成24年度	平成23年度	比較
69%	81%	▲12%

まとめ

平成24年度は、追分中学校建設事業の最終年であったとともに、防災行政デジタル無線整備事業などの大型事業を実施しましたが、債務負担行為にかかる借入金を一括繰上償還したことにより将来への負担額を減少することができました。これにより社会資本形成の世代間比率が前年度▲7%となり、また、負債比率が前年度と比較して▲12%と改善していますが、負担比率の数値をみると他の自治体と比較して高い数値となっています。

平成25年度以降も給食センター建設事業や町内各小学校の耐震改修事業などが続きますが、負債が減少している状況を保ちながら基金をさらに積み立てるなど、健全な財政状況にしていくよう努力してまいります。

用語解説

1. 貸借対照表

- | | |
|------------|--|
| (1) 事業用資産 | 公共サービスに供されている資産で、インフラ資産以外の資産
(例: 学校、公営住宅など) |
| (2) インフラ資産 | 道路、河川等の社会基盤となる資産 |
| (3) 債権 | 未収金や貸付金など将来的に資金となるもの |
| (4) 投資等 | 有価証券や出資金、出えん金、基金、積立金など |
| (5) 資金 | 歳計現金や普通預金など |
| (6) 未収金 | 税や使用料などの未収金 |
| (7) 公債 | 町が資産形成する時などに発行する町債 |

2. 行政コスト計算書

- | | |
|---------------|----------------------|
| (1) 他会計への移転支出 | 特別会計への繰出金などの財政支出 |
| (2) 純経常費用 | 総行政コストから経常業務収益を引いたもの |

3. 純資産変動計算書

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| (1) 期首純資産残高 | 前年度末の純資産の額 |
| (2) 評価・換算差額等の変動 | 資産の再評価による損益、無償受入れによる資産の増減 |

4. 資金収支計算書

- | | |
|----------------|-----------------------|
| (1) 長期金融資産形成支出 | 貸付金、有価証券、基金、積立金にかかる支出 |
| (2) 元本償還支出 | 町債(公債)や借入金の元本償還にかかる支出 |